

発行所  
桐生厚生総合病院 中央検査部  
責任者 伴 聡

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

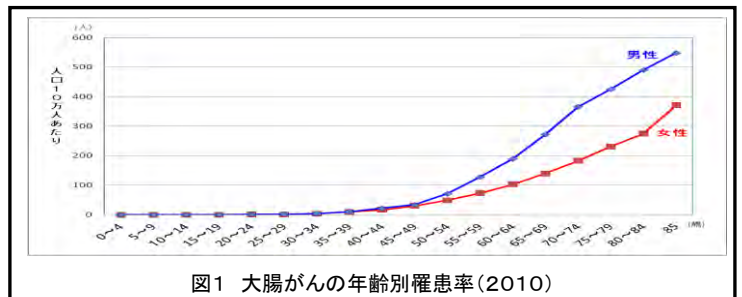
2015 年 4 月 発行

## 便潜血検査について

便潜血検査は便に付着した目に見えない血液を検出することで大腸がん、下部消化管出血性疾患のスクリーニング法として行われています。近年、大腸がん罹患する患者、死亡する患者が増加しており、特に女性のがんによる死因の第1位が大腸がん(表)です。男女とも図1の様に40歳を過ぎてから大腸がん患者が増加傾向を示します。便潜血検査を行うことで進行がんの80%、早期がんの50%程度を発見することができ、大腸がんによる死亡者を減少させるための意義ある検査となっています。

	男性	女性
第1位	肺がん	大腸がん
第2位	胃がん	肺がん
第3位	大腸がん	胃がん
第4位	肝臓がん	膵臓がん
第5位	膵臓がん	乳がん

表 2013年のがんによる死亡データ



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス

## 当院の採便方法、測定機器について

### 採便方法について

検査の検出率を上げるため2日間採便(便の採取)する方法が主流で行われています。当院で使用している採便容器(図2)と採便方法(図3)です。また、提出までの間の最適な保存方法は冷蔵です。

#### 採便容器(図2)

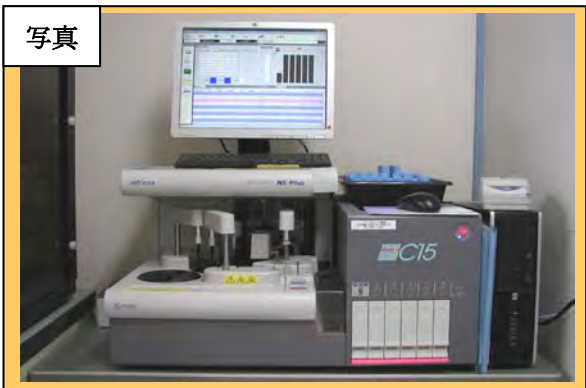
青い袋には説明書等が入っています

#### 採便方法(図3)

便の正しい採り方 1(名前記入) → 2(採便) → 3(袋に入れ提出)

## 便潜血検査測定機器

写真



写真は当院で使用している便潜血分析機器です。  
(アルフレッサファーマ社)

測定機器で使用する試薬はヒト血液に特異的に反応するため**食事制限が不要**です。

測定を開始してから約30分程度で結果を報告することができます。

## 陰性判定・陽性判定の結果解釈について

### 陰性判定の場合について

判定が「陰性」の場合は、おおむね出血の異常はありません。しかし、日頃から症状がある方や気になっている方は精密検査（大腸内視鏡検査等）を受けることをお勧めします。

#### 大腸がんを疑う症状

- \* 便に血が混じる
- \* 便秘と下痢を繰り返す
- \* 前に比べて細い便しか出ない
- \* お腹が張っている
- \* 残便感がある
- \* 腹痛やしこりがある

### 陽性判定の場合について

判定が「陽性」の場合は、原因を検索するために精密検査が必要となります。しかし、精密検査の結果、陽性者で大腸がんの割合は5%程度とされていますので大部分の方が異常ない場合が多いです。大腸がん以外に陽性判定となる原因で多いのが痔やポリープ、憩室、感染症、大腸炎です。例え、大腸がんだったとしても早期に発見できた場合は手術等で9割の方が治る病気です。

## 便潜血検査を受けていただくために

現在、食事の欧米化、肥満などの危険因子により大腸がん患者が増加しており、将来的に男女とも死亡原因の1位になると言われています。大腸がんを早期発見するため、特に大腸がん罹患率が上がる40歳を過ぎてからは年に1回検査を受けることをお勧めします。

便潜血検査は日頃、忙しい方でも採便するだけで比較的簡単に行うことができる検査となっています。当院では外来や検診の他に、お手軽検査で行うこともできますのでご利用ください。

参考引用 表 2013年のがんによる死亡データ、図1大腸がんの年齢別罹患率(2010)  
国立がん研究センターがん情報サービス(がん登録・統計) <http://ganjoho.jp>



「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ(インターネット)で公開しています。ご参照ください。  
ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp>